春風に桜の花が舞い、木々の芽吹きに生命の躍動を感じる、春爛漫のこの佳き日に、多くのご来賓のご臨席を賜り、このように盛大に、兵庫県立神戸高等学校第七十四回入学式を挙行できますことは、私ども教職員にとって、大きな慶びとするところであります。高壇からではございますが厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

また、保護者の皆様におかれましても、この日を、さぞお慶びのこととご推察いたします。心よりお祝い申し上げます。また、本日多くのご出席をいただき、大変ありがたく、心強く感じているところでございます。

先ほど入学を許可した、三百六十名の皆さん、ご入学おめでとうございます。今日から皆さんは、神戸高校七十四回生として本校で学ぶことになりました。

皆さんをお迎えするこの神戸高校は、明治二十九年に兵庫県神戸尋常中学校として開校、明治三十四年に開校した兵庫県高等女学校とともに幾多の変遷を経て、この両校が昭和二十三年の学制改革により統合して、現在の兵庫県立神戸高等学校となりました。

明治から続く長い歴史の中で、「質素剛健」「自重自治」の四つの校訓のもと、皆さんの先輩たちは、勉学、部活動、学校行事等に全力で取り組んでこられました。卓越した歴史と伝統、威風堂々とした学舎。皆さんが、神戸高校生になった喜びはひとしおであると思います。この感動を忘れず、充実した素晴らしい三年間を過ごしていって欲しいと願っています。

ところで、皆さんにとって、神戸高校生になることは、人生の目的ではありません。

では、人生の目的とは何か。難しい問題ですが、私は、人類に貢献することだと思っています。

だから、人の役に立っていると思ったとき、人は喜びを感じ、人類の一員である自分を磨き高めていると思うとき、充実感を持つのだと思います。違う言葉で表現するならば、社会貢献と自己実現であります。

加えて、神戸高校で学ぶ皆さんには、社会の様々なところで、世の中を牽引する人として、社会貢献をしていってほしいと思います。

現代、ＩＣＴやＡＩ等の急激な進歩に伴い、未来を予測することが困難な時代を迎えています。

詩人、高村光太郎は、『道程』という詩の中で、「僕の前に道はない　僕の後ろに道はできる」と言いました。

皆さんには、進むべき先が見えにくい時代にあって、人々の先頭に立って薮をかき分けながら進む人のように、未来への道を切り拓き、自分の後に続く人々のため道を作っていく

人になっていただきたいと願っています。

そのために、皆さんに、この三年間、心にとどめておいてほしい三つのことを言います。

まず、第一に、積極的に学ぶ姿勢を持ち続けてほしい、ということです。本校校歌の中に「きわむる　自然　人文の真理」という一節があります。皆さんはこれから、しっかりと知識を蓄え、そして知恵へと高めていかなければなりません。知恵とは、知識を必要な場面で活用できる能力です。

昨今の社会情勢を見てみると、地震、豪雨などの自然災害、エネルギー、環境などの諸問題、思想的対立、武力紛争、等、知識だけでは答えがみつからない難しい課題がいくつも発生しています。だからこそ、知恵を持って考えることが必要です。解決に向けて一歩でも進んでいくことは、未来を切り開く皆さんの使命だと思います。

第二は、部活動や学校行事、自治会活動に積極的に参加してほしい、ということです。いろんなことに全力に取り組んで行き、豊かな心と健やかな体を育んでください。そうする中で、生涯のかけがえのない友人を得ることもできるでしょう。

ここ神戸高校では、皆さんが輝くことのできる様々なステージを用意しています。皆さんは、可能性の塊です。自分のまだ知らない自分の素晴らしい力を発見していってほしいと思います。

そして第三は、先ほど紹介した、本校の校訓「質素剛健」「自重自治」を実践してほしいということです。本校では、この四つの生徒が守るべき基本方針を、四綱領と言っています。

「質素剛健」は、真面目で実直、勇気あることです。「自重自治」は、自らの使命を重んじ、品性を保ち、自らが定めたことによって自らの行為を律することを言います。

これこそが、長年引き継がれてきた、神戸高校生、神高生のあるべき姿なのだということを、忘れないでいてほしいと思います。

ここで、保護者の皆様に一言申し上げます。皆様の大切なお子様を本校の生徒として、本日よりお預かりいたします。私ども教職員一同、全力をあげて、お子様の教育に取り組む所存でございます。本校の教育にご理解とご協力を賜り、家庭と学校が連携して子供たちの成長を支援して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、本校では昔から、生徒たちのことを「鵬雛（ほうすう）」と呼んでいます。鵬（ほう）は横綱白鵬関の鵬（ほう）、雛（すう）はひな鳥のひなの字を書きます。すなわち、おおとりのひなです。ちなみに、本校の正門に至る坂道の途中にある、グランドに入る門を、

おおとり門と言います

　この鵬（ほう・おおとり）は中国に伝わる伝説の鳥です。中国の古典「荘子（そうじ）」によれば、とてつもなく巨大な鵬（おおとり）は、北の果てから、海上を三千里飛び、旋風に乗って九万里の高さに上り、南の果ての海へと向かうということです。転じて、大志を抱き、大事業をなそうとすることをいいます。本校に入学した皆さんは、いずれおおとりへと成長する、そのひなになったのです。

　限りない可能性を持った皆さん、志を高く持って大空へ飛び立つ準備を、これから本校でしていってください。私たち教職員は、そのために、努力を惜しみません。

　皆さんが、これから本校で充実した三年間を過ごし、ゆくゆくは鵬（おおとり）となって、日本へ、世界へ羽ばたいていかれることを祈念して、式辞とします。

　平成三十一年四月八日

兵庫県立神戸高等学校長　　世良田　重人